保証書とアフターサービスについて

保証書について

この製品には保証書がついておりますので、お買い上げの販売店よりお受け取りください。お受け取りになった保証書は、記載内容及び「販売店、お買い上げ年月日」などの記入事項をお確かめのうえ、大切に保管してください。必要事項が記載されていない場合は、すぐにお買い上げの販売店にお申し出ください。保証期間はお買い上げ日より1年間です。

アフターサービスについて

●調子が悪いときは

修理を依頼される前に、この取扱説明書をよくご覧になり正しく使われているかお調べください。それでも調子が悪いときは、お買い上げの販売店、または弊社修理ご相談センターにご相談ください。

●保証期間中は

保証書の記載内容に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。

●保証期間が過ぎた場合は

修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により有料修理させていただきます。お買い上げの販売店、または弊社修理ご相談センターにご相談ください。

OHM 株式会社 オーム電機
〒342-8502 埼玉県吉川市旭3-8
https://www.ohm-electric.co.jp

修理に関するご相談は **修理ご相談センター**へ
電話受付 **048-992-3970** 平日 9：00〜17：00
※土曜・日曜・祝日及び年末年始は除きます

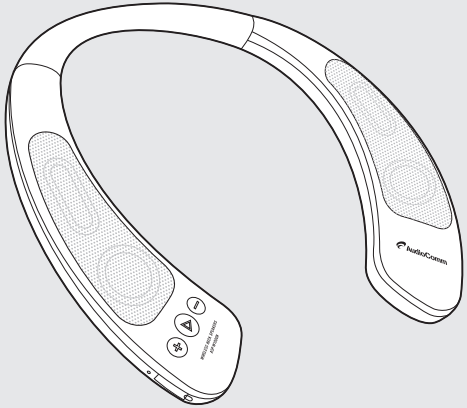
製品に関するお問い合わせは **お客様相談室** へ
●通話料無料 ●携帯・IP・公衆電話からは
0120-963-006 048-992-2735
電話受付 平日 9：00〜17：00
※土曜・日曜・祝日及び年末年始は除きます

AudioComm®

取扱説明書

ワイヤレスネックスピーカー

型　番：ASP-W1000N-W/K
品　番：03-2053/2054



このたびは、AudioComm® ワイヤレスネックスピーカーをお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。
この取扱説明書をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。
なお、お読みになられた後は、ご使用時にいつでも見られますよう大切に保管してください。

もくじ

免責事項…… 1
充電式電池について …… 1
安全上のご注意 …… 2〜4
Bluetoothについて …… 5〜7
各部の名称…… 8
充電のしかた …… 9
電源のオン／オフについて …… 10
Bluetoothを搭載した機器と接続して使う…… 11〜13
Bluetooth送信機を使う …… 14〜17
マルチポイント機能を使う …… 18〜19
故障かなと思ったら …… 20〜21
お手入れのしかた …… 21
主な仕様…… 22
保証書とアフターサービスについて …… 裏表紙

免責事項

下記の事項につきましては弊社は一切の責任を負いかねます。

- ●弊社の責任によらない製品の損傷や、破損、または改造による故障や不具合
- ●本製品によって生じたデータやプログラムの消失または破損
- ●本製品のために費やした時間及び経費
- ●本製品を運用した結果もたらされた損害
- ●本製品によりもたらされた、直接的、間接的な効果及び利益の損失
- ●本製品をご使用になって生じたあらゆる結果及び、直接的、間接的なシステム、機器及びその他の異常

充電式電池について

絶対に交換しないでください。誤って交換すると爆発する危険があります。

- ●充電式電池（リチウムポリマー電池は消耗品であり、正常に使用した場合でも経年により劣化します。
- ●充電式電池はリサイクルできます。廃棄については各自治体にご相談ください。

安全上のご注意

電気製品は間違った使いかたをすると火災や感電による人身事故につながる可能性があります。このような事故を防ぐために、この取扱説明書をよくお読みになり、注意事項を必ずお守りください。注意事項は、取り扱いを誤った場合に予想される事故の大きさによって3段階に表示しています。

絵表示について

この取扱説明書では、製品を安全に正しくお使いいただき、お使いになる方や他の方への危害や財産への損害を未然に防止するためにいろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから、本文をお読みください。

⚠ 危険	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、火災、感電、破裂などにより死亡したり、大けがなどを負う可能性が想定される内容です。
⚠ 警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容です。
⚠ 注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、感電やその他の事故によりけがをしたり、周辺の家財に損害を与えたりする可能性が想定される内容です。

絵表示の使用例

⚠	△記号は、注意（危険、警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。 左図の場合は「感電注意」が描かれています。
🛇	○記号は、禁止の行為であることを告げるものです。 左図の場合は「分解禁止」が描かれています。
●	●記号は、行為を強制したり指示したりする内容を告げるものです。 左図の場合は「ACアダプターをコンセントから抜く」が描かれています。

⚠ 危険

接触禁止	**充電式電池（リチウムポリマー電池）が液もれしたときは、素手で触らない** ●本機には充電式電池が内蔵されています。万一、液もれしているのを見つけたら、素手で触らず、弊社お客様相談室にご連絡ください。 ●万一、液が目に入った場合は、目をこすらず、すぐに水道水などのきれいな水で十分に洗い、ただちに医師の診察を受けてください。失明の原因となるおそれがあります。 ●液がからだや衣服についたときも、すぐにきれいな水で洗い流し、皮膚に炎症やけがの症状があるときは医師に相談してください。

次ページに続く

⚠ 警告

22cm以上離す	**心臓ペースメーカーを使っているときは、装着部位から22cm以上離す** ●電波によりペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。
接触禁止	**雷が鳴り始めたら、安全のため本機及び充電コードに触れない** ●感電するおそれがあります。
使用禁止	**万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常を感知したら、すぐに使用を中止する** ●そのまま使用すると、火災・感電の原因になります。 ●煙が出なくなるのを確認して、販売店または弊社お客様相談室までご連絡ください。
	万一、内部に異物などが入った場合は、すぐに使用を中止する ●そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。 ●販売店または弊社お客様相談室までご連絡ください。
分解禁止	**分解、修理、改造しない** ●火災・感電の原因となります。
禁止	**航空機内や医療機器の近くで使わない** ●電波の影響で誤作動の原因になるおそれがあります。
	付属の充電コード以外では充電しない ●火災や感電、機器の故障の原因となります。
	本機や充電コードの上に、重いものをのせない ●本機の破損・故障や、コードが傷ついて火災・感電の原因となります。
	運転中は本機や本機と接続した携帯電話を操作したり、携帯電話の画面を注視しない。また、運転中以外でも、周囲の音が聞こえないと危険な場所（踏切や駅のホーム、車の通る場所、工事現場など）では本機を使わない ●必ず道路交通法に従ってください。事故やけがの原因となります。 ●歩行中でも周囲の状況に十分に注意し、他者の迷惑にならないようにご注意ください。
	自動車の中や直射日光の当たる場所、火のそばなどでは使用しない。また絶対に放置しない ●高温になると、危険を防止するためリチウムポリマー電池が充電できなくなったり、保護回路が壊れて異常な電流や電圧で充電され、発熱、破裂、発火の原因になります。
	充電コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしない ●コードが破損して火災・感電の原因となります。
	火の中に入れない ●本機にはリチウムポリマー電池が内蔵されており、誤って火中に入れると、発熱、破裂、発火の原因になります。

⚠ 注意

保管場所に注意	**小さなお子様の手の届かないところに保管する** ●誤った取り扱いにより、思わぬ事故を招くことがあります。
音量に注意	**大音量で聴き続けない** ●聴力障害などの原因となることがあります。 ●本機の使用に際しては、周囲の迷惑にならないよう、十分にご注意ください。電車やバスなどでのご使用は避けてください。
水かけ禁止	**浴室、台所など湿気の多い場所や水飛沫のある場所では使わない** ●感電や故障の原因となります。
ぬれて禁止	**ぬれた手で操作しない** ●故障や感電の原因となることがあります。
禁止	**暖房器具や調理器具の近くなど、油・蒸気・熱のあたる場所に置かない** ●破損・故障の原因となります。
	振動や衝撃の多い場所、ぐらついた台の上、傾いた場所など、不安定な所に置かない ●落下してけがをする可能性があります。また、破損・故障の原因となります。
	充電コードを熱器具に近づけない ●コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。
	本機をかばんなどの中に入れたままにしない ●かばんに力が加わるなどして、変形や破損、故障の原因となることがあります。
	磁気カードや腕時計などを近づけない ●磁気の影響により、記録内容の消失や故障の原因となることがあります。
	シンナーやベンジン、アルコールなどで拭かない ●変形・変色の原因となります。
	自動制御機器（自動ドアや火災報知器など）の近くで使わない ●電波の影響で誤作動の原因となることがあります。
	充電コードのプラグを抜くときは、コードを引っ張らない ●コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。 ●必ずプラグ部を持って抜いてください。
	日本国以外では使用しない ●本製品は日本国内専用です。日本国内で正規に販売された接続機器以外との接続による安全性は保証いたしかねます。 ●国によって電波使用制限が異なるため、海外で本製品を使用した場合、罰せられることがあります。

Bluetoothについて

Bluetoothとは

Bluetoothは、パソコンやオーディオシステム、デジタルカメラなど、比較的距離の短いデジタル機器間で通信を行なう無線技術です。USBやオーディオケーブルで2つの機器間をつなぐ必要がなく、近距離（最大約10m）であれば、どこにいても無線通信により音楽や通話を楽しむことができます。

Bluetoothの対応バージョン及びプロファイル

Bluetoothは世界標準規格によって、特性・機能ごとに対応バージョンとプロファイルが規定されています。本製品は以下のバージョン及びプロファイルに対応しており、ご利用にあたっては、通信相手となるBluetooth機器においても、以下に挙げるいずれかのプロファイルに対応している必要があります。

※Bluetooth機器側が同じプロファイルに対応していても、本製品の性能・機能が制限される場合があります。

※本製品はすべてのBluetooth対応機器との接続動作を保証したものではありません。

【対応バージョン】　Bluetooth標準規格 Ver.5.0

【対応プロファイル】

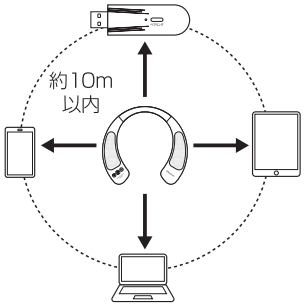
- HSP（通話／携帯電話などを操作するためのプロファイル）
- HFP（ハンズフリーで通話／携帯電話などを操作するためのプロファイル）
- A2DP（高音質な音楽コンテンツを受送信するためのプロファイル）
- AVRCP（再生、一時停止などオーディオ機器を操作するためのプロファイル）

セキュリティについて

本製品はBluetooth通信時のセキュリティとして、標準規格に準拠したセキュリティ機能を有していますが、設定内容などによっては十分に対応できないおそれがあります。万一、情報漏洩などが発生しても、弊社としては一切の責任を負いませんのであらかじめご了承ください。

通信可能範囲について

Bluetoothの通信可能範囲は最大約10mですが、人体、壁、金属などの障害物の有無や電波状態によって有効範囲が変化します。できるだけ障害物がない空間でご使用ください。



本製品の機器認定について

本製品は電波法にもとづく小電力データ通信システムの無線設備として認証を受けていますので、ご使用にあたって無線局の免許は必要ありません。ただし、本製品を分解・改造する行為、本製品に貼ってある定格銘板を消したりはがしたりする行為は、法律により罰せられることがあります。

本製品は日本国内でのみ使用できます。

ネックスピーカー本体	R 007-AK0056
Bluetooth送信機（AV-TXB10N）	R 007-AK0057

使用周波数と注意事項

本製品の使用周波数帯（2.4GHz帯）では、電子レンジなどの産業・科学・医療用機器のほか、工場の製造ラインなどで使用されている移動体識別用の構内無線局（免許が必要）、特定小電力無線局（免許が不要）、及びアマチュア無線局（免許が必要）が運用されています。

1. ご使用の前に、近くで移動体識別用の構内無線局、特定小電力無線局、及びアマチュア無線局が運用されていないことを確認してください。
2. 本製品の使用により、万一、移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉が発生した場合には、速やかに本製品の電源を切ってください。そのうえで弊社お客様相談室にご連絡いただき、混信回避のための処置（例えばパーティションの設置など）についてご相談ください。
3. そのほか、移動体識別用の特定小電力無線局またはアマチュア無線局に対して有害な電波干渉が発生した場合やご不明点がございましたら、弊社お客様相談室までお問い合わせください。

次ページに続く

Bluetoothについて（つづき）

医療機器近くで使用する際は、特に注意してください

●本製品を使用中に気分が悪くなった場合は、ただちに使用を中止してください。

●病院内など無線機器の使用を禁止された区域では、本製品の電源を切ってください。また、無線機器の使用が制限された区域では、施設管理者などに確認のうえ使用してください。他の機器に悪影響を与えたり、事故の原因となります。

●医療機器及び人命に直接的または間接的に関わるシステム、高い安全性や信頼性が求められる環境下では絶対に使用しないでください。

●医療機関内では次のことを守ってください。

・手術室、集中治療室（ICU）、冠状動脈疾患監視病室（CCU）には持ち込まない。

・病棟内では本製品を使わない。

・ロビーなどでも、周囲に医療機器がある場所では電源を切る。

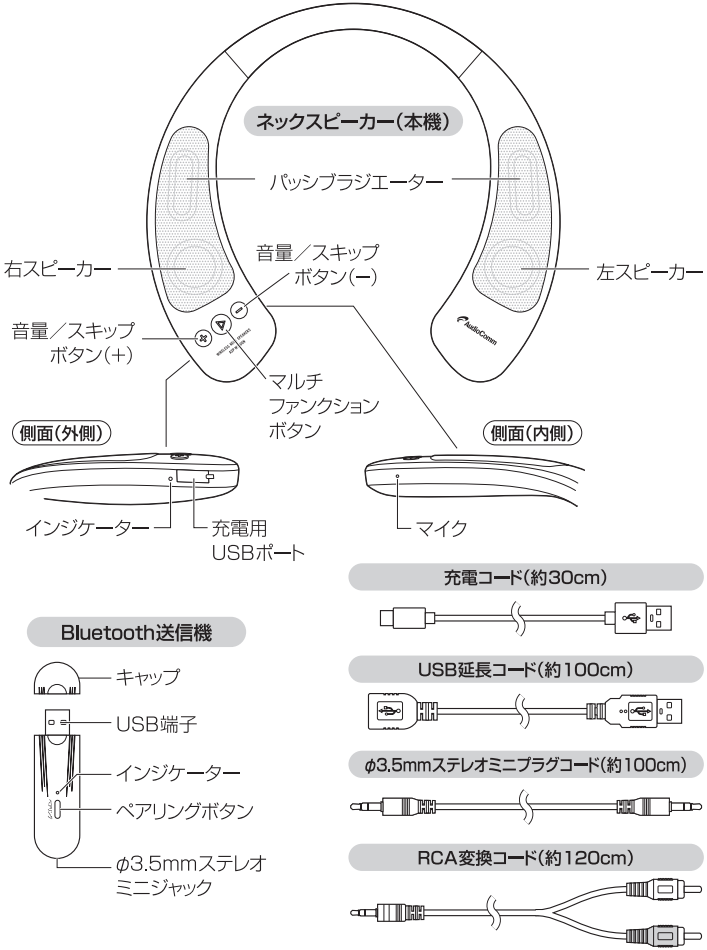
・その他、医療機関による使用制限や使用禁止指示は必ず守る。

●植込み型心臓ペースメーカー、または植込み型除細動器を装着している場合は、装着部から本製品を22cm以上離して、携行及び使用してください。電波によりペースメーカー及び除細動器の動作に影響を及ぼすおそれがあります。

●植込み型心臓ペースメーカー、または植込み型除細動器を装着している方で、自宅などでの療養中の方は、本製品をご使用になる前に、電波による影響について個別に医療機器メーカーなどにご確認ください。電波により医療機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

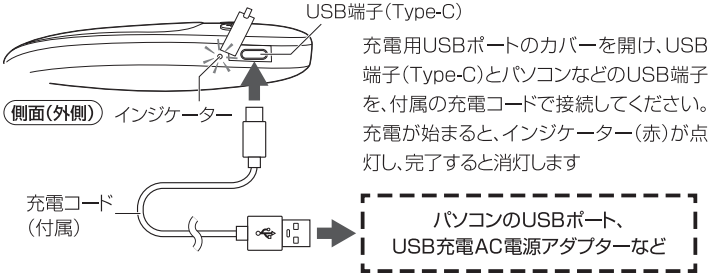
●混雑している場所では、周囲に植込み型心臓ペースメーカーまたは植込み型除細動器を使用している人がいる可能性があります。ご使用の際は十分にご注意ください。

各部の名称



充電のしかた

はじめてお使いになるときは、本機を十分に充電してください。



充電用USBポートのカバーを開け、USB端子(Type-C)とパソコンなどのUSB端子を、付属の充電コードで接続してください。充電が始まると、インジケーター(赤)が点灯し、完了すると消灯します

重要 付属の充電コードは本機専用です。他のUSBコードを本機の充電に使わないでください。また付属の充電コードは他の製品には使用しないでください。機器やデータの故障、破損につながる場合があります。

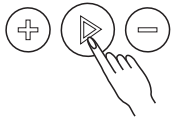
ヒントとご注意

- ●パソコンで充電するには、電源供給ができるUSBポートに直接接続してください。USBハブなどを介してつなぐと正常に充電されません。また、充電中にパソコンが省電力モードやスリープモードになると正しく充電されません。
- ●家庭用コンセントで充電する場合は、USB充電AC電源アダプター(別売)をご利用ください。
- ●十分に充電したにも関わらず持続時間が半分程度になった場合は、内蔵されている充電式電池の寿命と考えられます。
- ●許容動作環境(温度：0℃～40℃、湿度：20～80% 結露なしにて)を逸脱した環境下で充電した場合、充電が完了していなくてもインジケーターが消灯することがあります。適正な環境下で再度試し、それでも問題が解決しない場合は弊社お客様相談室にご連絡ください。
- ●Bluetooth接続中に電池残量が少なくなると、3秒ごとにインジケーター(赤)が点滅し、電子音が鳴るようになります。その後しばらくすると電源が切れますので早めに充電してください。
- ●長期間使わなかったときは、電池持続時間が短くなることがあります。この場合は何回か充放電を繰り返すと、十分に充電できるようになります。電池の寿命を延ばすため、未使用時でも3ヶ月ごとに充電し直すことをおすすめします。

電源のオン／オフについて

電源オン

マルチファンクションボタンを、3～4秒間長押しします。

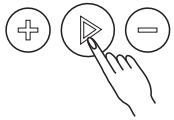


- ●インジケーター(青)が点灯して電子音が鳴り、電源が入ります。すぐにインジケーター(青)が点滅に変わり、ペアリングモード(ワイヤレスで接続可能な機器を探している状態)になります。
- ●はじめて使うときは、音源となるBluetooth搭載機器(以下、相手側機器)、またはBluetooth送信機(付属)とのペアリングが必要です。ペアリング及び接続のしかたは、Bluetooth機能の有無や、搭載している接続端子の種類などにより異なります。

・Bluetooth を搭載した機器と接続する場合：P.11～13
・Bluetooth 非搭載機器の場合（付属の Bluetooth 送信機を使用）：P.14～17
を参照して操作してください。

電源オフ

電源が入っているときに、マルチファンクションボタンを3～4秒間長押しします。



- ●電子音が鳴り、電源が切れます。インジケーターも消灯します。

ヒント

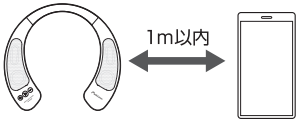
- ●ペアリングとは、本機を相手側機器またはBluetooth送信機に初期登録する操作のことです。ペアリングを一度行なうと、ペアリング済みの機器が近くにあり、その機器のBluetooth機能が有効なときは、自動接続します。ただし、接続する機器の仕様により自動接続しない場合があります。そのときは機器付属の取扱説明書に従い、接続してください。
- **●自動電源オフ機能について**
  電源を入れた後、ペアリングやBluetooth接続が完了していない状態が約5分間続くと、節電のため本機の電源は自動的に切れます。

Bluetoothを搭載した機器と接続して使う

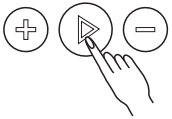
ペアリングのしかた

相手側機器が他の機器とBluetooth接続しているときは、本機とのペアリングができないことがあります。事前に必ず他機との接続を解除してください。
ここでは携帯電話(スマートフォン)との接続を例に説明します。パソコンやタブレット、Bluetooth機能を搭載した一部のテレビでも、基本的な流れは同じです。

1 本機と相手側機器を手元に用意します。
●相手側機器は電源が入っている状態にしてください。



2 本機のマルチファンクションボタンを3〜4秒間長押しして、電源を入れます。
●電源が入った後、すぐにペアリングモードになります。



3 Bluetooth機器側で本機を登録してください。

Bluetooth の設定画面を開く

iPhone : [設定]→[Bluetooth]

Android : [設定]→[その他の設定]→[Bluetooth]
[設定]→[無線とネットワーク]→[Bluetooth 設定]

NTT docomo : [アプリ]→[設定]→[Bluetooth]

SoftBank : [設定]→[端末設定]→[無線とネットワーク]→[Bluetooth]

au : [設定]→[端末設定]→[無線とネットワーク]→[Bluetooth 設定]

Windows Mobile : [設定]→[接続]→[Bluetooth]

上記は携帯電話の参考例ですが、機種や搭載OSのバージョンなどにより、ボタンや項目の名称、画面展開が異なります。各機器付属の取扱説明書を参照して、Bluetooth機器の検索・登録画面へ順次進んでください。

本機を登録する

相手側機器で本機の名称「ASP-W1000N」が表示されたら、それを選択して登録します。パスキーやPINコードを求められた場合は「0000」と入力してください。
※機器によっては、ご自身で設定されたパスコードが必要な場合があります。

ペアリングが完了すると…

電子音が流れ、インジケーターが速い青点滅からゆっくりとした点滅に変わります。相手側機器で再生などの操作を行なってください。一部の機器では、マルチファンクションボタンを押すことで再生を始められるものもあります。

ヒント 接続がうまく行かなくなったり、正常に動作しなくなったときは
●本機の電源を切り、しばらくしてからもう一度入れ直してみてください。
●相手側機器のBluetooth設定画面を開き、本機との接続を確認してください(接続中の状態にあるときは、いったん解除した後、もう一度接続してください)。
●上記を試しても正常に戻らないときは、相手側機器で本機の登録を削除し、改めてペアリングし直してください。

ボタン操作例

下記は代表的な機器の操作例ですが、接続先の機器やメーカー、使用しているアプリなどにより、動作のしかたが異なっていたり、動作しないことがあります。

●携帯電話やパソコン(音楽再生アプリ使用時)

ボタン	短く押す	長押し
マルチファンクションボタン	再生／一時停止	電源を切る
音量／スキップボタン(+)	音量を上げる	次の曲を再生
音量／スキップボタン(−)	音量を下げる	曲の先頭に戻って再生。直後にもう一度長押しすると、1つ前の曲を再生

Bluetoothを搭載した機器と接続して使う(つづき)

●携帯電話やパソコン(動画配信サービス視聴時)

ボタン	短く押す	長押し
マルチファンクションボタン	再生／一時停止	電源を切る
音量／スキップボタン(+)	音量を上げる	次のコンテンツを再生
音量／スキップボタン(−)	音量を下げる	コンテンツの先頭に戻って再生。直後にもう一度長押しすると、1つ前のコンテンツを再生

●テレビ

ボタン	短く押す	長押し
マルチファンクションボタン	消音／出力	本機の電源を切る
音量／スキップボタン(+)	音量を上げる	―――
音量／スキップボタン(−)	音量を下げる	―――

携帯電話着信時の操作

	操作方法
電話に出る	着信音が鳴っているときにマルチファンクションボタンを押す
電話を切る	通話中にマルチファンクションボタンを押す
着信拒否	着信音が鳴っているときにマルチファンクションボタンを2秒間長押しする

※音量／スキップボタン(+／−)により、音量調節が可能です。

ヒントとご注意

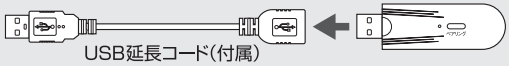
●通話時はマイク部を指先や衣類でふさがないようにご注意ください。
●お使いの機種によっては、携帯電話側で着信音や通話音声の出力設定などの切換操作が必要な場合があります。本機にて通話したい場合は、機器付属の取扱説明書を参照して設定してください。
●**着信音について**：携帯電話の機種や設定によっては、着信音が本機から1回だけ聴こえたり、その後は携帯電話側から通常の着信音が出力される場合などがあります。

Bluetooth送信機を使う

Bluetoothを搭載していない機器の場合は、付属のBluetooth送信機を音源となる機器(以下、音源機器と言います)に接続することにより、ワイヤレスで音楽や音声を楽しむことができます。
Bluetooth送信機の接続方法は、音源機器に搭載された接続端子の種類により異なります。以下の「接続のしかた」を参照して正しく接続してください。

ヒントとご注意

●Bluetooth送信機が音源機器や家具などの背後にあると、接続が不安定になって音が途切れたりすることがあります。その場合は、付属のUSB延長コードを使い、できるだけBluetooth送信機が音源機器や家具などの前に出るようにしてください。



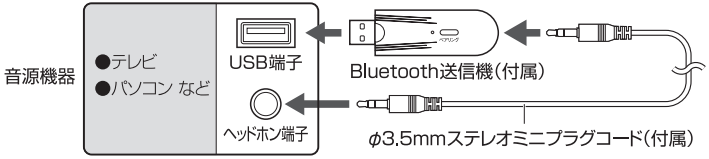
接続のしかた

音声出力(USB audio output)対応のUSBポートがある場合

Bluetooth送信機(付属)のUSB端子を、音源機器のUSBポートに接続してください。
※この場合、φ3.5mmステレオミニプラグコードの接続は必要ありません。

音声出力(USB audio output)非対応のUSBポートとヘッドホン端子がある場合

Bluetooth送信機(付属)のUSB端子を音源機器のUSBポートに接続します。
さらに、音源機器のヘッドホン端子とBluetooth送信機のφ3.5mmステレオミニジャックを、付属のφ3.5mmステレオミニプラグコードで接続してください。

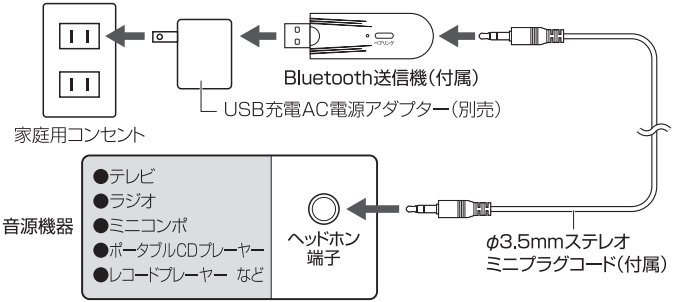


次ページに続く

Bluetooth送信機を使う(つづき)

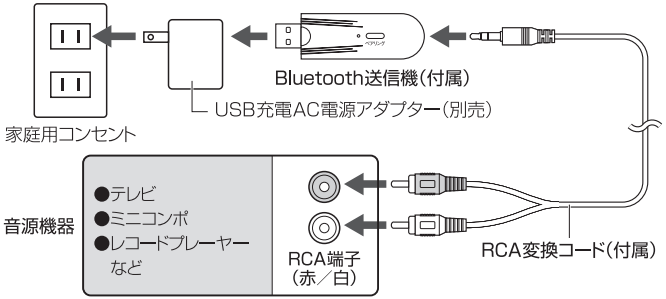
ヘッドホン端子のみの場合

音源機器のヘッドホン端子とBluetooth送信機のφ3.5mmステレオミニジャックを、φ3.5mmステレオミニプラグコード(付属)で、接続してください。
その後、USB充電AC電源アダプター(別売)を介して、Bluetooth送信機のUSB端子を家庭用コンセントにつないでください。 ※モバイルバッテリーで使うこともできます。



RCA端子がある場合

付属のRCA変換コードを使って、音源機器のRCA端子(赤/白)とBluetooth送信機のφ3.5mmステレオミニジャックを接続してください。
その後、USB充電AC電源アダプター(別売)を介して、Bluetooth送信機のUSB端子を家庭用コンセントにつないでください。 ※モバイルバッテリーで使うこともできます。



操作のしかた

1 Bluetooth送信機を正しく接続し、音源機器の電源を入れます。
●Bluetooth送信機のインジケーターが約10秒間、青く点滅した後、ペアリングモードになります(青:点灯/赤:交互点滅)。

2 本機のマルチファンクションボタンを、3〜4秒間長押しして電源を入れます。
●インジケーター(青)が点滅して、本機もペアリングモードになります。

3 本機とBluetooth送信機が自動的にペアリングされ、接続が完了します。
●接続完了後は電子音が流れ、本機のインジケーターはゆっくりとした青の点滅に、Bluetooth送信機のインジケーターは点灯(青)に変わります。
●音源機器側で、再生、選局、音量調節などの操作をしてください。
●本機では以下の操作が可能です。ただし、接続先の機器やメーカーなどにより、動作のしかたが異なっていたり、動作しないことがあります。

ボタン	短く押す	長押し
マルチファンクションボタン	消音/出力	本機の電源を切る
音量/スキップボタン(+)※	音量を上げる	―――
音量/スキップボタン(−)※	音量を下げる	―――

※音源側ではなく、本機側の出力を調節します。

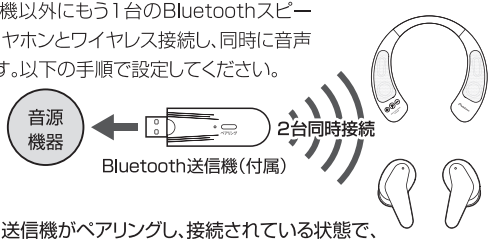
ヒント

●すでに他の機器と本機がペアリング済みの場合、Bluetooth送信機を使ったペアリングができないことがあります。その場合は、
①ペアリング済みの機器側で、本機との接続を解除または削除します。
②本機の電源を切ります。
③Bluetooth送信機のペアリングボタンを3秒間長押しし、ペアリングモードにします。
④本機の電源を入れます。
の手順で、本機とBluetooth送信機間のペアリングを行なってください。
●Bluetooth送信機が任意の機器とBluetooth接続中の場合でも、ペアリングボタンを3秒間長押しすると、接続を解除してペアリングモードになります。
●一度ペアリングすると、次に本機の電源を入れたときも自動で接続されます(事前にBluetooth送信機などが正しく接続されており、各機器の電源が入っている場合に限ります)。

Bluetooth送信機を使う(つづき)

2台のBluetoothスピーカー(またはBluetoothイヤホン)と同時接続する

Bluetooth送信機は、本機以外にもう1台のBluetoothスピーカーまたはBluetoothイヤホンとワイヤレス接続し、同時に音声を出力することができます。以下の手順で設定してください。



1 本機とBluetooth送信機がペアリングし、接続されている状態で、Bluetooth送信機のペアリングボタンを1秒間長押しします。

●このとき、2台目の接続機器は、電源が切れた状態にしておいてください。

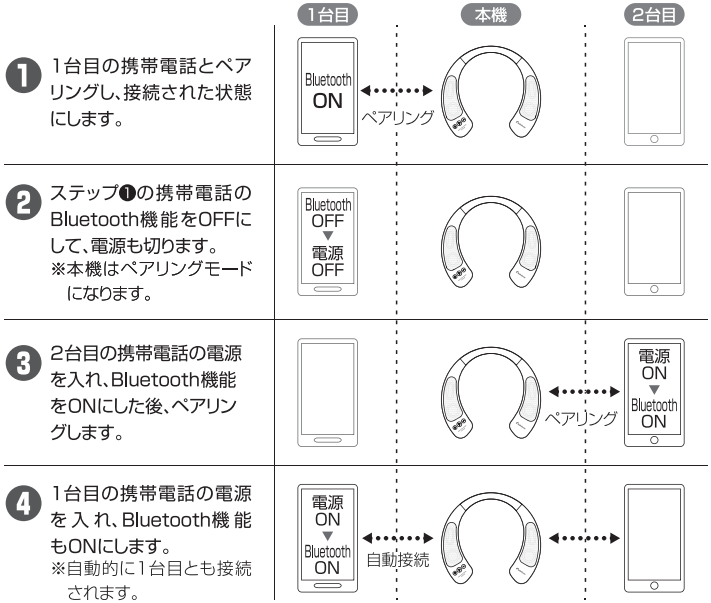
●Bluetooth送信機がペアリングモードに変わります(青:点灯/赤:交互点滅)。

2 2台目の機器の電源を入れると、2台目とも自動で接続されます。

●Bluetooth送信機のインジケーターが赤と青の同時点灯になります。

マルチポイント機能を使う

マルチポイント機能を使うと、2台のBluetooth機器と本機を接続することができます。例えば携帯電話2台を登録しておくことで同時待ち受けをしたり、携帯電話1台とBluetooth送信機の組み合わせもできます。携帯電話2台の場合の手順で説明しますが、Bluetooth送信機を組み合わせる場合は、1台目、2台目のいずれかをBluetooth送信機に読みかえて、以下の手順で設定してください。



1 1台目の携帯電話とペアリングし、接続された状態にします。

2 ステップ❶の携帯電話のBluetooth機能をOFFにして、電源も切ります。
※本機はペアリングモードになります。

3 2台目の携帯電話の電源を入れ、Bluetooth機能をONにした後、ペアリングします。

4 1台目の携帯電話の電源を入れ、Bluetooth機能もONにします。
※自動的に1台目とも接続されます。

操作のしかた

●マルチファンションボタンを3回続けて押すことで、接続中の機器を切り換えることができます。

●本機のボタンは、選択中の機器により動作が異なります。P.13〜16を参照して、操作してください。

次ページに続く

マルチポイント機能を使う(つづき)

ヒントとご注意

●相手側機器の音量設定により、本機から聞こえる音量レベルは異なります。マルチポイントにて2台接続中は、機器の切り換えにより、突然大音量になったり、ほとんど聞こえなくなったりすることがありますのでご注意ください。
●携帯電話と接続中に着信(呼び出し)があった場合：マルチファンクションボタンを押すと、その電話に出ることができます。
●2台の携帯電話と接続中に、2台とも着信があり、呼び出し中の場合：マルチファンクションボタンを押すと、最初にかかってきた携帯電話とつながります。
●通話中に、もう一方の携帯電話にも着信があった場合：
・マルチファンクションボタンを2回続けて押すと、通話中の携帯電話は保留になり、後からかかってきた電話に出ることができます。
・もう一度マルチファンクションボタンを2回続けて押すと、後からかかってきた電話を保留し、元の電話(最初にかかってきた電話)との通話を再開します。通話が終了すると2台とも待受状態になります。
●携帯電話の機種によっては、マルチファンクションボタンによる操作で通話を終了することができないことがあります。その場合は相手に通話を切ってもらうか、携帯電話側で操作をしてください。
●本機と接続した2台の携帯電話を3者間通話などで同時に使うことはできません。
●この機能はすべてのBluetooth対応携帯電話での動作を保証するものではありません。

故障かなと思ったら

症状	チェック事項
充電ができない	・充電コードは正しく接続されていますか。 ・パソコンに接続している場合、電源供給ができるUSBポートに接続していますか。USBハブなどを介さず、直接接続していますか。パソコンが省電力モードやスリープモードになっていませんか。 ・付属品ではない充電コードを使用していませんか。
電源が入らない	・電池残量が減っていませんか。 ・マルチファンクションボタンを3～4秒間長押ししましたか(短く押していませんか)。
ペアリングができない	・相手側機器の電源は入っていますか。 ・相手側機器は本機のプロファイルに対応していますか。 ・相手側機器が他の機器と通信していませんか。 ・相手側機器との間に障害物があったり、双方の距離が離れすぎていませんか。 ・すでに他の機器とペアリングしたことがある場合、その機器と自動接続されていませんか(その機器との接続を解除してからやり直してください)。
2回目以降使用時に、Bluetooth接続ができない	・本機及び相手側機器の電源は入っていますか。 ・相手側機器が他の機器と接続中ではありませんか。 ・相手側機器がスリープ状態になっていませんか。 ・相手側機器内で本機の登録が削除されていませんか。
音が出ない	・正しくBluetooth接続されていますか。 ・相手側機器で再生などの操作を行ないましたか。 ・本機または相手側機器の音量が最小になっていませんか。 ・相手側機器との間に障害物があったり、双方の距離が離れすぎていませんか。 ・相手側機器にて、音声の出力先は正しく設定されていますか(相手側機器内で設定が必要な場合があります)。
ノイズやエコー音がしたり、音が途切れがちになる	・相手側機器との間に障害物があったり、双方の距離が離れすぎていませんか。 ・無線通信を阻害する電磁波や無線LAN環境の近くで使用していませんか。

次ページに続く

故障かなと思ったら(つづき)

症状	チェック事項
携帯電話に 着信があっても、 本機が応答しない	・本機との接続が解除されていませんか。 ・携帯電話の設定がサイレントモードなど、着信を知らせない設定になっていませんか。 ・一部の携帯電話では、Bluetooth使用に際して切換操作が必要なものがあります。携帯電話の取扱説明書でご確認ください。
Bluetooth送信機と 接続できない 接続先の音が出ない	・電源供給機能のないUSBポートに接続していませんか(Bluetooth送信機のインジケーターが点灯・点滅しない場合の原因として考えらえます。別途、USB充電AC電源アダプターを介して家庭用電源と接続してください)。 ・音声出力に対応していないUSBポートに接続していませんか(φ3.5mmステレオミニプラグコードを使って、ヘッドホン端子とBluetooth送信機を接続してください)。 ・Bluetooth送信機が音源機器や家具などに隠れていませんか。USB延長コード(付属)を使い、本機との間に遮蔽物がない場所に移動させてください。
マルチポイント機能で 音が出ない	・意図した機器と別の機器が選ばれていませんか。マルチファンクションボタンを3回続けて押し、接続先を変更してみてください。 ・相手側機器の音量が最小になっていませんか。 ・相手側機器とのBluetooth接続が解除されていませんか。

お手入れのしかた

本機の表面が汚れたら、柔らかい布でから拭きしてください。汚れがひどいときは、布をぬるま湯か薄めた中性洗剤で湿らせ軽く拭いた後、から拭きしてください。
シンナー、ベンジン、アルコールなどは表面の仕上げを傷めますので、絶対に使用しないでください。

シンナー、ベンジン、アルコールなどは使用しない

主な仕様

電源	ネックスピーカー本体:DC5V(USB給電:USB Type-C端子)
	Bluetooth送信機(AV-TXB10N): DC5V(USB給電:USB Type-A端子)
内蔵バッテリー	充電式リチウムポリマー電池　3.7V　400mAh
スピーカー	口径33mm 3.6Ω×2、パッシブラジエーター×2
最大出力	1.5W+1.5W
通信方式	Bluetooth標準規格 Ver.5.0
対応プロファイル	HSP、HFP、A2DP、AVRCP
対応コーデック	SBC、AAC、aptX、aptX HD、aptX Low Latency
変調方式/周波数帯域	GFSK / 2.402~2.480GHz
最大通信距離	見通し 約10m(Class2)
再生周波数帯域	20Hz~20kHz(A2DP)
マイク指向特性/感度	無指向性/-42dB±3dB
充電時間	約3時間(残量ゼロからフル充電まで)
再生・通話可能時間	約15時間(50%音量時)
待受可能時間	約30日間
許容動作温度/湿度	温度:0~40℃　湿度:20~80%(結露なしにて)
外形寸法	ネックスピーカー本体:幅204×高さ186×奥行24mm
	Bluetooth送信機:幅23×高さ80×奥行14.5mm
質量	ネックスピーカー本体:約175g
	Bluetooth送信機:約13g
付属品	専用充電コード、Bluetooth送信機、φ3.5mmステレオミニプラグコード、RCA変換コード、USB延長コード、保証書、取扱説明書(本書)

※最大通信距離、充電時間、再生・通話可能時間、待受可能時間はあくまで目安であり、使用状況によって異なります。※仕様及び外観は改善のため予告なく変更することがあります。※本書に記載しているシステム名、製品名は、一般に各社の商標または登録商標です。※本書で使用しているイラストは、実際の製品と一部異なる場合があります。

※Bluetooth及びBluetoothロゴマークは、Bluetooth SIG,INC.の商標で、当社はライセンスにもとづき使用しています。

※Qualcomm aptXは、Qualcomm Technologies,Inc.及びその子会社の製品です。
※Qualcommは、Qualcomm Incorporatedの商標であり、米国及びその他の国で登録されています。aptXは、Qualcomm Technologies International,Ltd.,の商標であり、米国及びその他の国で登録されています。